

彙 報

本会記事

西南アジア研究会総会

1996年度総会は、先の会告のごとく、1996年12月7日午後2時から、京都大学楽友会館において開催された。

小野山節会長の開会の挨拶の際、新たに谷口淳一氏を編集委員に加えたこと、および故伊藤義教氏より本会への寄付があったことが報告された。続いて桑山正進氏を議長に選出し、議事に入った。まず久保一之委員と谷口淳一委員から、会誌発行状況、会員数、会計等の会務についての報告が行われ、ついで、勝藤猛監事から会計が適正に処理されている旨報告された。その後、編集委員からの提案により、会誌第48号(1998年3月発行予定)を伊藤義教博士追悼記念特集号とすることが諮られ、承認された。

総会議事の後、京都大学大学院教授庄垣内正弘氏に、「サンクト・ペテルブルグ所蔵ウイグル文献について」と題してご講演いただき、最後に間野英二副会長の閉会の挨拶をもって終了した。

会費納入のお願い

本誌第45号発送時に1996年度会費(第45～46号相当分)および滞納金をご請求申し上げたところ、多くの方からご協力が得られました。誠に有難く存じ上げます。

しかしながら、いまだご入金いただいていない会員の方も、少なくありません。第45号発送時にご通知した、会費納入状況をご確認の上、早々にお支払いいただけるようお願い申し上げます。

『西南アジア研究』投稿規定

I 投稿先 西南アジア研究会 〒606-01 京都市左京区吉田本町 京都大学文学部内

II 原 稿

- 1 B 5 版200字詰原稿用紙に横書きのこと。(原稿の全内容を入力した MS-DOS テキストファイルを添付することが望ましい。)
- 2 論文は注を含め80枚でいいど、研究ノート・研究動向は20枚～60枚とする。
- 3 論文等すべて1号限りで完結するものとし、連載はしない。
- 4 採否は編集委員会が決定し、手直しを求めることもある。
- 5 原稿は返却しない。ただし図については、投稿時に申し入れがあれば返却する。
- 6 別刷は30部を進呈する。ただし増刷はおこなわない。
- 7 投稿者は本誌の体裁にしたがい、以下の書き方に統一すること。
 - a. 第1頁に表題・氏名、第2頁にその英訳、第3頁以下を本文とし、注・文献表を含めて通し頁をうつ。
 - b. 章はローマ数字、アラビア数字で示す。ただし章節の表題の有無は自由である。
 - c. 注は別紙おこしとし、本文の後ろにつける。注の書き方は次のとおりとする。
 - 1) この場合、帝王の叙任は……
どちらともいえない。
 - d. 頁のみの引用はしない。参考文献の場合は [Fussman 1978 : 94—98]、資料の場合は [HS : 25] として本文中に入れる。なお94—98, 25などは引用頁である。
 - e. d. によって生じる文献表をつくり、別紙おこしで注のうしろにつける。筆者姓 A B C 順とし、欧文、和文、中文を混記する。中文は拼音による。書式は、下のIVのとおり。
 - f. 雑誌などの略号は本誌の表紙うらの方式にしたがうこと。単行本・雑誌は、欧文ではイタリック指示、和・中文では『 』に入れ、論文表題は括弧をつけず、裸のままにする。巻数はアラビア数字とし、号数は () に入れて、3 (1), 4 (3-4) [3, 4号合併号の場合] などとする。Vol., Part などの表示はしない。なおロシア文字はイタリックを用いない。
- 8 以上により、文字原稿は、表題・氏名、英文表題・氏名、本文・注、文献表より成る。

III 図の原稿

- 1 本誌ではアート紙・折り込み図表は使わない。
- 2 したがって版面12×18cmを考慮すること。
- 3 図はそれぞれ別紙に作成し、通し番号をつけ、各図の天地を明確にすること。
- 4 たとえば図3などが複数の写真などで構成されるときは、版面に入るよう考慮のうえ、出来上り図を作成すること。個々の図は、図1からの通し番号とする。
- 5 図の説明文（キャプション）は図に記入せず、B 5 版200字詰原稿用紙に書き、他の文字原稿の末尾につけておくこと。
- 6 本文原稿に図の挿入箇所を明示すること。原稿頁の右下に「図2挿入」などと朱書きし、出来上りの面積（ 5×8 cm）、頁における位置（上下左右など）を指示すること。
- 7 そのままで版下になる図をつくること。図中に文字を貼りこむ場合は、別途に経費を申しうけることがある。

IV 文献表の書き方

参考文献

IB :

DAI : (引用の一次史料の略号, および表紙裏記載以外の雑誌などの略号をアルファベット

GAR : 順に配列し, コロンに続いてフルタイトル表記)

Tr. Id. :

Ackemann, H. Ch. (1975) *Narrative Stone Reliefs from Gandhara in the Victoria and Albert Museum in London : Catalogue and Attempt at a Stylistic History*. Rome.

Allchin, F. R. (1968) Archaeology and the Date of Kanishka : The Taxila Evidence. In : Basham, A. L. (ed) *Papers on the Date of Kanishka*. Leiden, 4-34.

Bühler, G. (1894) The Bhattiprolu Inscriptions. *Epigraphia Indica* 2, 323-329.

Burgess, J. (1970) *The Buddhist Stupas of Amaravati and Jaggayyapeta in the Krishna District, Madras Presidency, Surveyed in 1882* (rep ed). Varanasi.

Errington, E. (1987) Takhal : The Nineteenth-Century Record of Two Lost Gandhara Sites. *BSOAS* 50 (2), 301-324.

Gelder, J. M. van (tr) (1963) *Mānava Śrautasūtra Belonging to the Maitrāyaṇī Saṃhitā* (1985 rep ed). Varanasi.

Kurita, I. (1988) *Gandharan Art I : The Buddha's Life Story. Ancient Buddhist Art Series I-II*. Tokyo.

Kuwayama, Sh. (1994) The Horizon of Begram III and Beyond : A Chronological Interpretation of the Evidence for Monuments in the Kapiśi-Kabul-Ghazni Region. *EW* 41 (1-4), 79-120.

Le Berre, M & D. Schlumberger (1964) Observations sur les remparts de Bactres. *Monuments pré-Islamique d'Afghanistan. MDAFA* 19, 61-105.

Marshall, J. (1914) Sha-ji-ki-Dheri. *Annual Report of the Director-General of Archaeology, Archaeological Survey of India 1, 1911-12*. Calcutta, 11.

Marshall, J. (1918) *A Guide to Taxila*. Calcutta.

Marshall, J. (1936) *A Guide to Taxila* (3rd ed). Delhi.

Marshall, J. (1951) *Taxila : An Illustrated Account Archaeological Excavations I-III*. Cambridge.

Marshall, J., A. Foucher & N. G. Majumdar (1940) *The Monument of Sāñchi I-III*. Delhi.

安藤志朗(1985) ティムール朝 Shāh Rukh 麾下の中核 amīr 『東洋史研究』43(4), 4-11.

桑山正進(1987) 『大唐西域記』(訳注)(『大乘佛典』中国篇9)林檎社.

佐藤 長(1979) 『チベット歴史地理研究』岩波書店.

曾 問吾(野見山温訳)(1945) 『支那西域経緯史』上 東光書林.

田原 正(1978) 六朝建築の設計規準 山本五郎(編) 『中国科学史研究』平凡社, 39-66.

西南アジア研究 第46号 1997年3月25日印刷 1997年3月31日発行

編集兼発行者 京都大学文学部内 西南アジア研究会 会長 小野山節

年会費 維持会員12,000円, 一般会員(大学院生を含む)6,000円, 学生会員(学部在学者)4,000円

振替口座 01080-7-19867 印刷者 デジテックジャパン株式会社 京都市伏見区深草下川原町109-6